

1 学校教育目標

○考える子 ○がんばる子 ○助け合う子 ○元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童・保護者・地域から信頼される学校 ○子供一人一人を大切に、子供たちが「明るく生き生きと活力のあふれる」学校 ○子供・教職員ともに良さや可能性を十分発揮し、ともに成長する学校
○児童・生徒像	○子供たちがめざして欲しい「扇っ子」の姿を全校児童に ・「おもいやり」の心を大切にする児童、「うんどう」して体を鍛える児童、「ぎもん」を大切に、自ら学ぶ児童
○教師像	○自らの向上を図ることができる教師 ○学校運営に貢献し、主体的な提案ができる教師 ○学校、児童、地域に誇りをもてる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学力向上】落ち着いて授業を受けている児童が多く、基本的な学習規律は身に付いている。また、補習や計算名人検定の実施により、学習に対する意欲も高まってきている。しかし、意欲はあっても基礎学力の定着には結びついておらず、指導方法のさらなる改善が必要である。さらに、家庭学習の習慣が身に付いている児童が少なく、家庭と連携して学力向上に取り組む必要がある。

【自己肯定感の醸成】前年度は、児童の発表の場や体験活動など、自信をもたせたり達成感を味わわせたりする活動がなかなかできなかった。そのため日々の学校生活の中で、できる限り教員が認める声かけをするように努め、児童が学校生活の中で充実感を味わえるようにした。また、委員会活動や係活動など特別活動を充実させ、学級での自己有用感を高められるようにした。今年度はさらに工夫しながら指導を継続していくと同時に、自己肯定感の土台となる基本的な生活習慣を身に付けていけるように、生活指導部を中心に組織的に指導に取り組んでいく。

【教員の授業力向上】コロナ禍で活動が制限される中、意欲的に授業改善に取り組むことができた。しかし、基礎学力の定着には課題があり、児童にとって「できた。わかった。」と満足できる授業を目指して改善が必要である。また、ICTの活用について研修を深め、児童が学ぶ楽しさを実感できる授業の実践を目指していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	自己肯定感の醸成	○	○	○	○	○
3	教員の授業力向上	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
児童の基礎学力の定着		学力調査通過率 80%以上							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	朝学習 パワーアップ タイム	全学年 国語 算数 読書	火:国語 水:読書 金:算数 始業前	【指導者】担任 【ねらい】復習・確認 【使用教材】計算プリント等	単元テスト ・全校共通ソ フトに入力 し毎月確認	・単元テストで 正答率 80% 以上			
継続	補習教室 (A補習) (C補習)	全学年・ 各教科	休み時 間や放 課後等	【指導者】各担任・専科 【ねらい】指導中内容の定着 【使用教材】プリント等	定着度 確認テスト 12・2月実施	2月テストで目 標値を通過する 対象児童 80%			
継続	放課後補習 教室 (B補習)	全学年 国語、 算数	放課後	【指導者】各学年担当者 (担任・専科・管理職等) 【ねらい】つまずき解消 【使用教材】 ・定着度テスト対応問題 等	定着度 確認テスト 9月に実施	2月までに実施 する定着度確認 テストで目標値 を通過する対象 児童 80%			
継続	計算名人 検定	2年生～	2年かけ 算学習後 ～ 3年～ 通年	【指導者】担・専・支援員 【ねらい】 計算力の定着 【使用教材】 計算問題プリント	定着度確認テ スト (対象児童)	全学年 定着率 90%以 上			
継続	読書・読み 聞かせ活動	全学年	年間	【指導者】担・ボランティア等 【ねらい】 読書習慣の定着・語彙の獲 得・知的好奇心の涵養 【使用教材】記録用カード	記録用カード 題名とページ 数を記録	・1～3年 80冊/年 ・4～6年 6000頁/年 50%以上が達成			

新規	プログラミング教育の充実	全学年	通年	全学年で年間通して ICT を活用した授業を実施。年間計画に沿って各担任によるプログラミング教育を行う。タブレットを活用した授業実践についての研修会を行い、授業に活用していく。	年間計画作成・実施 年 3 回研修会	計画通りの実施確認	
継続	家庭学習の手引き発行	全学年 全員	年 1 回 (4 月)	【ねらい】 ・家庭学習の習慣化・協力 ・宿題の提出率を担当が確認	宿題提出状況調査	宿題提出率 100%	
継続	サマー ウィンター スプリング スクール	全学年 算数 国語 各学年 10 名程度 正答率 70%以下	夏休み 10 日 冬休み 1 日 春休み 1 日	【指導者】担・専・管 【ねらい】 担任による少人数指導。つま ずきの解消。解けなかった問 題の直し等。 【使用教材】 ・プリント教材 ・次へのステップ等	校内学力テ スト	次回の校内学力 テストで正答率 アップ	
新規	扇寺子屋	全学年	通年	放課後キッズぱれっとの時 間を活用し、自力で宿題に取り 組むことが難しい児童対 象に宿題の指導を管理職が 行う。	宿題提出状況 調査	宿 題 提 出 率 100%	
継続	MIMによ る指導の充 実	1 年 そだち指 導	年間 国語・ そだち 補充	【指導者】1 年担任、 そだち指導員 【ねらい】MIMの確実な定着 【使用教材】プリント教材	MIM 実施状況 を毎月確認	1 月に 1 st ステ ージを 85%	

重点的な取組事項－2		自己肯定感の醸成		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分も他人も大切にできる児童の育成	児童の意識調査の「良い」の項目 80% 以上			

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の定着	「早寝・早起き・朝ごはん」の達成率 90%以上 あいさつ名人 90%以上	学校便りや保健便りなどで基本的な生活習慣の大切さを各家庭に向けて発信していく。 「生活がんばりカード」を活用して家庭と連携しながら児童の意欲を高めていく。 「あいさつ」週間を通してあいさつのできる児童の育成を目指す。			
人権教育の充実	年間計画に沿った「特別の教科道徳」の授業の実施。 教員の人権研修を年3回以上実施	「特別の教科道徳」の授業で「生命尊重」「思いやり」「他者理解」について指導を深めていく。 研修を通して教員の人権意識の向上を図る。 全校で場に応じた丁寧な言葉使いができるよう取り組む。			
特別活動の工夫	児童が主体的に活動に取り組む、全児童が学級に必要とされているという自己有用感をもてるようにする。	学級での係活動の充実 委員会活動の工夫 兄弟学年活動の実施 学級やクラブ・委員会での話し合い活動の充実 発表の場を多く設定			
様々な体験学習の実施	地域と連携した体験活動を年3回以上実施。 外部講師による出前授業を年3回以上実施。	地域の自然材を活用したり、地域の方をゲストティーチャーとしてお招きしたりしながら、地域と交流を図り、地域の一員であるという意識を高めていく。 外部講師を招いたり、出前授業を実施したりすることで、体験活動を充実させる。			

重点的な取組事項－3		授業力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全児童が「できた。」「わかった。」と実感できる授業の実践。		全教員による問題解決型授業の実施。児童の「授業アンケート」の「勉強したことがわかる」の項目 90%以上			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
授業観察による授業改善	管理職による授業観察を年3回以上実施し、授業改善を図る。	授業チェックシートを活用しながら、自己評価をした上で管理職による指導を行い改善を図る。			
校内研究の充実	年3回以上の授業研究の実施 年5回以上の研修会の実施	各分科会でテーマを決め、お互いに授業を見合い、授業研究を実施する。 各教科の指導の工夫など、研修会をもち、お互いに発表し合い授業に活用していく。			
小中連携の充実	年4回の研究授業と4回の研修会の実施	9年間の見通しをもって、系統的な指導計画を立てる。 他校の指導方法から自らの指導を振り返り、改善につなげていく。			
教科指導専門員との連携	毎月1回以上教科指導専門員と管理職で情報交換を行い、若手教員の授業力向上に努める。	教科指導専門員の指導記録と若手教員の週案などから、課題を確認し、授業の改善に必要な指導をしていく。			